

令和3年度補正 水産業競争力強化緊急施設整備事業事後評価結果

		長崎県水産部水産経営課
目的	給氷方法の改良と作業クレーンの陸揚げ岸壁設置により、陸揚げ作業の迅速化及び省力化を図る。	
目標	漁業所得の向上及び陸揚げ作業時間の短縮	整理番号 3
事業実施主体	美津島町漁業協同組合	
実施地区	対馬市美津島町尾崎地区	
実施期間及び目標年度	実施期間	目標年度
	令和2年度～令和4年度	令和6年度
交付金額	●●●●●●●●●●円 (内訳 R2: ●●●●●●●●●●円、R3: ●●●●●●●●●●円、R4: ●●●●●●●●●●円)	
事業計画の内容	○製氷施設 日産15トン(7.5トン×2台)、貯氷15トン 施設新築工事 ○施設解体 旧施設解体撤去、既存施設解体撤去 ○クレーン設備導入 固定式クレーン設置工事 2.93t吊り 5段ブーム13m	
評価	取組の目標 (K P I)	クロマグロ養殖漁業、定置網漁業者及び一本釣り漁業における漁業所得の11%向上を図る
	基準年	(令和元年度末時点) ●●●●●●●千円
	現状値	(令和6年度末時点) ●●●●●●●千円
	目標値	(令和7年度末) ●●●●●●●千円
	成果目標	製氷施設の整備を通じて、クロマグロ養殖業の所得向上を図る
	現状値	(令和6年度末時点) ●●●●●●●千円
	目標値	(令和6年度末) ●●●●●●●千円
	(1) 現状値の説明	成果目標の達成状況としては、近年の給餌価格の高騰や燃油の高止まりなど厳しい状況の中、尾崎地区については、以前から取り組んでいる養殖マグロ「トロの華」のブランド化の取組や品質向上の取組により当地区の養殖マグロは高く評価され魚価の向上に繋がっており、成果目標を設定した際の現状値であった令和元年度当時に比べ、単価が向上している。また、令和6年度においては、年末商戦から年始にかけてマグロの品薄により商社からの引き合いも多く、1月にまとまった出荷もあり、令和6年度の水揚げ額を押し上げ、目標値を大きく上回ることができた。 また、本事業で設置したクレーンなどの漁労軽減施設の活用を通じた作業速度が改善されたことも成果目標を上回ることができた1つの要因と考えられる。
	(2) 地域への経済効果	製氷施設の利用状況は、年間計画1,992.4tに対し、令和6年度は1,807.3tであり、計画対比90.7%であった。 計画値を下回った要因は、イカ釣り漁業不振や燃油高騰に起因する出漁控え、天候不良等により、出漁日数が減少したためである。
	(3) 所見	近年は燃油等の漁業経費が上昇しており、特に令和5年度から養殖マグロ用の餌料価格が高騰しているものの、魚価については、経費の上昇に見合った上昇はしておらず、更に令和7年度は天然クロマグロの漁獲可能量が増加したことから、養殖クロマグロの魚価向上は厳しい状況にあると感じている。中国の日本産水産物の輸入再開による魚価上昇を期待したい。
(4) 評価機関への意見等		
今後の改善方向等に関する分析	製氷施設の目標達成には、養殖マグロの出荷数量の増加が必須となるが、令和7年度は天然クロマグロの漁獲可能量が増加したことから、養殖クロマグロの出荷数増加は厳しい状況ではある。しかしながら、中国の水産分輸入再開などの明るい話題もあることから、事業者と協力し、商社等を通じて養殖マグロの出荷本数増加に努める。また、対馬西海岸の漁模様を早く掴み、氷が不足する夏季において、各支所及び他漁協に対し給氷可能であることを周知していくことで供給量を増やしていく。	